

平成22年度 小松市立高等学校 学校評価計画書

重点事項	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 各学年に応じたキャリア教育を通して生徒の自己実現を目指す。	1 生徒の学力向上や進路実現に向けて、より適切な指導・助言ができるよう個人面談・保護者懇談などを通じ、生徒・保護者へのコミュニケーションを充実させる。	教務課 各学年	担任が、毎学期また適宜個人面談を行っている。1学期・2学期末には、保護者懇談を実施している。	【努力指標】 担任は、年間を通して積極的に個人面談を行う。	個人面談の回数が A 5回以上 B 4回 C 3回 D 3回以下	A+Bが80%以下の場合、面接回数を増やすなどの工夫をする。	
	2 1、2年次に実施したキャリア教育の行事や総合的な学習の時間のテーマ研究、小論文との連携において、3年生までに自らの進路を決定する。	進路指導課 1、2学年	キャリア教育行事や総合的な学習の時間を実施しているが、必ずしもこの2つが連携されて各自の進路先の決定に繋がっているとは限らない。	【満足度指数】 キャリア教育に関連する行事や総合的な学習の時間が将来を考える参考になった。	3年生になるまでに自分の進路先が A 決定した B だいたい決定した C 考え中である D まったく決まっていない	A+Bが80%以下の場合、キャリア教育の行事や総合的な学習の時間を再検討する。	2年次3学期にアンケート調査を実施
	3 芸術コースの教育内容について理解を広めるため、対外的主要5行事に多くの参加者、集客を得ることを目指す。	芸術コース	昨年度参加・集客数実績(概算) ・オープンキャンパス 35(参加数) ・芸術祭 300(入場者数) ・体験入学 45(参加数) ・卒業演奏会 300(入場者数) ・卒業制作展 200(記帳など)	【努力指標】(参加・集客目標数) ・オープンキャンパス 40 ・芸術祭 400 ・体験入学 45 ・卒業演奏会 400 ・卒業制作展 300	努力指標を上回った行事が A 5つすべて B 3つ C 2つ D 1以下	C、Dの場合は内容・方法を再検討する。	
	4 PTAと連携して、キャリア教育の充実をはかる。	総務課	週休日実施のPTA主催による仕事に関するパネルディスカッションにおいて生徒200名の参加があった。内容も充実していた。	【満足度指数】 参加生徒が300名を超える。	参加生徒が A 300名以上 B 250～299名 C 200～249名 D 200名未満	C、Dの場合は内容・方法を再検討する。	
2 生徒の基礎学力の定着、家庭学習の習慣の確立ならびに部活動との両立を目指す。	1 補習や学習合宿、家庭学習などにおいて進路実現に効果的である取組を実施する。	進路指導課	昨年末ではアンケートを実施して、第一志望の進路先が実現したかを調査したが、その取組が効果的であったかはわからなかった。	【満足度指数】 80%以上の生徒がこれらの取組が効果的であって自分の進路先に満足している。	満足する進路先に決まると答えた人数が全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dが全体の2割を越える場合は進路指導内容を再検討する。	3年末にアンケートを実施
	2 家庭学習の習慣を確立し、学習時間を確保する。	教務課 各学年	家庭学習が不足し、授業内容が定着しない生徒もみられる。	【成果指標】 平日、平均100分以上の家庭学習を行う。	目標時間に達成している生徒が 3年生 A 80%以上、B 60%以上、C 50%以上、D 50%未満 2年生 A 60%以上、B 50%以上、C 40%以上、D 40%未満 1年生 A 50%以上、B 40%以上、C 30%以上、D 30%未満	C、Dの場合は各学年・教科において原因を分析し、改善を図る。	年間9回程度学習時間調査を実施 m100mプラン
	3 校内研究授業や授業見学を行い教師の授業改善に努める。	教務課	現在も年間3回の授業見学週間を設けている。また各教科で研究授業を実施している。	【成果指標】 他教科の授業も含め積極的に授業見学を行う。	1年間を通じ、授業見学回数が、 A 5回以上 B 4回 C 3回 D 3回未満	A+Bが80%以下の場合には検討する。	
	4 部活動・課外活動と学習活動の両立を目指し、進路実現を図る。	生徒指導課	部活動・課外活動と学習の切り替えが十分にできていない生徒が多い。	【成果指標】 部活動との両立80%以上を目指す。	部活動との両立ができたと答えた生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、D の場合は、部顧問・担任が連携して指導を行う。	生徒に対してアンケートを実施。

3	生徒の国際交流への支援体制を整え、積極的な参加を促す。	1	修学旅行の事前指導	総務課 2学年	パスポートの取得から国際的なマナー、シンガポールの法律まで指導している。	【満足度指数】 事前指導の計画・資料の準備が適切であるか。	修学旅行の事前指導が意義あるものであると判断した生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は内容・方法を再検討する。	修学旅行後、アンケート実施
		2	英語によるコミュニケーション能力を高め、積極的に国際交流に参加する姿勢を身に付ける。	教務課 英語科	国際交流や語学習得に意欲を持つ生徒が増えてきており、英検などの資格取得にも積極的に取り組む体制を整えたい。	【成果指標】 英語検定で上位の資格を取得することに積極的に取り組む。卒業時まで英検2級～準2級程度の語学力を身に付けることができる。	英語検定で準2級以上の資格を取得した生徒が A 70人 以上 B 60人 以上 C 50人 以上 D 50人 未満	C、Dの場合は、国際交流・コミュニケーション能力の向上に向け、さらに啓発を行う。	
4	生徒の基本的な生活習慣の確立と社会的規範意識の向上を図る。	1	登校指導、ホームルーム等で始業時間の大切さを理解させ、遅刻をなくしベル着を定着させる。	生徒指導課 教務課	登校時に遅刻が常習になっている生徒がいる。また、朝学習に間に合わない生徒もいる。	【成果指標】 1日の平均遅刻数を減らす。	1日の平均遅刻人数が A 3人以下 B 5人以下 C 7人以下 D 7人以上	C、D の場合は、個別指導を強化する。	
		2	交通安全講話や登校指導で交通ルールを理解させ、登下校時の安全を図る。	生徒指導課	登下校時に自転車マナーの悪い生徒がいる。また、年間の事故件数も多い。	【成果指標】 登下校時に、自転車マナーや交通ルールを自覚して行動している。	十分自覚して行動している生徒が、 A 90% B 85% C 80% D 80%以下	C、D の場合は、交通指導の回数を増やす。	事故が発生した場合は、ST等で注意を喚起する。
		3	登校指導等により、挨拶の励行を推進する。	生徒指導課	自らすすんで挨拶する生徒が減少してきている。	【成果指標】 生徒が自らすすんで挨拶ができる。	自らすすんで挨拶ができると答えた生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、D の場合は、部活動単位での指導の強化を依頼。	生徒に対してアンケートを実施。
5	環境学習にも関心を持ち、知性豊かで心身ともにたくましい生徒の育成を目指す。	1	ゴミを出さない、持ち込まない意識を向上させごみの排出量を減少させる。	保健環境課	プリント類などのごみの排出量は削減できたが、飲食物の袋、空等がまだ多い。	【成果指標】 ゴミの量を減らすことができた	昨年度の排出量より A 10%減 B 5%減 C 増減なし D 増	B以下の場合は全校集会等で呼びかける。	昨年度のごみ収集量と比較
		2	多くの生徒が読書を身近なものとして捉えられるように興味・関心を持てる企画を実施する。	総務課	年内貸出冊数は伸びてきているが、利用するのはほぼ決まった生徒である。	【成果指標】 貸出人数が増えた。	図書貸出人数の増加が A 40人以上 B 30人以上 C 20人以上 D 20人以下	Dの場合は企画を検討する	図書貸出カードで集計
		3	体幹を鍛え、バランス力を養うため、授業で倒立を行う時間を設ける。	保健環境課 体育科	明確に上達の程度が分かる倒立、または倒立前転ができるようにする。前年度の目標達成度を踏まえ、今年度の目標数値を達成できるよう取り組みたい。	【成果指標】 男子 倒立ができる。  女子 1年 壁倒立ができる 2年 倒立前転ができる 3年 倒立前転ができる	目標を達成している生徒が 男子 1年 2年 3年 A 70% 90% 85%以上 B 65% 85% 80%以上 C 60% 80% 75%以上 D 60% 80% 75%未満 女子 1年 2年 3年 A 75% 35% 40%以上 B 70% 30% 35%以上 C 65% 25% 30%以上 D 65% 25% 30%未満		